

縄文杉周辺の再整備に関するテーマ設定について

1. テーマ設定について

縄文杉周辺の再整備に関するテーマ設定は、縄文杉を含む縄文杉周辺の空間を演出するうえでのテーマ設定であり、同時に縄文杉周辺を定義づけるものでもある。

2. テーマ

体感 神秘の生態系 —悠久の時間を刻んだ森林景観を感じよう—

3. テーマのキーとなる考え方

- ・ 縄文杉はあの場所に生えていたから縄文杉に成り得た。
- ・ 縄文杉は荘厳な存在だが、その姿が畏敬の念を感じさせるのは、数千年のときをかけて縄文杉を育んだ生態系を有する森林景観と縄文杉が一体となった空間の神秘性にある。
- ・ あの場所こそ、森に根付いた1本の杉に悠久の時間を刻ませた神秘の空間である。
- ・ 縄文杉が生えるあの場所の神秘性を失わせることなく、次の縄文杉も育むことができる場所として、未来へ継承することを第一に考えなくてはならない。

4. テーマ設定にあたってのストーリー

樹齢千年を超えたヤクスギの巨体は、人々に神々しさを感じさせてきた。その感覚は、現代人も、過去の島人も変わらない。八百万の神々への信仰や万物が仏性を有するとする草木国土悉皆成仏という思想が、日本にはある。日本人は古くからあらゆるものに神が宿ると信じ、またそうした神々を身近に感じてきた。人と自然のつながりが希薄になる現代にあって、ヤクスギという存在は、まさに木にも神が宿ることを実感させるような貴重な力強さを持っている。

ヤクスギのもつその力強さは、ヤクスギそのものだけで醸し出されるわけではなく、根付いた土地に鎮座し、多様な着生植物を光背のように配し、凜として森のなかにある姿が醸し出すものである。つまり、ヤクスギの魅力は、土地、着生木、そして周辺の森とヤクスギが一体となった空間を目にしたときに感じられる神々しさにあり、私達は、ヤクスギのある空間も含めた“ヤクスギ”から多くの感動を享受しているのである。

ヤクスギのなかでもその名の知れた縄文杉は、特に人々を魅了する。確かに縄文杉は立派なヤクスギである。しかし、見方を変えれば、縄文杉はあの場所だからこそ縄文杉に成り得たのである。縄文杉そのものも人々を感動させるが、畏敬の念を抱くほどの感動は、縄文杉を育んだ生態系を有する森林景観と縄文杉とが、一体となった空間が与えてくれるのではないだろうか。そしてそれは、1本のスギに悠久の時間を刻ませた生態系の神秘がもたらす感動である。

私達は、縄文杉が生きているあの場所の神秘性を失わせることなく、次の縄文杉も育むことができる場所として、確実に未来へ継承することを第一に考えなくてはならない。そのためには、縄文杉を訪れる人々に、縄文杉の姿だけではなく、それがたたずむ森という空間を感じて頂きたい。そして、縄文杉登山を通じて、この空間があったから縄文杉があることに、屋久島にはそんな神秘の空間がまだまだ広がっていることに、思いを馳せてもらえるような自然体験をして欲しい。